



ナフサ問題の今！ 運送会社のコスト上昇対策 - 燃料サーチャージ・適正原価の基本を解説

【記事の要点3つ】

- ✓ ナフサ価格の上昇はタイヤ・部品・梱包資材などを通じて運送会社のコスト増加につながるため、価格変動に一喜一憂するのではなく、自社の原価を常に把握できる体制づくりが重要である。
- ✓ 燃料サーチャージは軽油価格上昇分を運賃とは別に補填する仕組みであり、現在の軽油価格に合わせて適切に設定・見直しを行うことで、年間数十万円から 100 万円近いコスト増を吸収できる可能性がある。
- ✓ 改正トラック新法により「適正原価」の把握が重要視されており、燃料費だけでなく修理費・タイヤ代・人件費・荷待ち時間なども含めて案件ごとの利益が見える化し、適正な運賃設定につなげることが求められている。

本記事では、ナフサ価格高騰をきっかけに、運送会社が見直すべき「燃料サーチャージ」と「適正原価」について解説しています。

ナフサ価格の上昇は、タイヤや物流資材、自動車部品などを通じて、運送会社のコスト増加につながります。さらに軽油価格、修理費、部品代、人件費なども上昇しており、利益を圧迫しています。

燃料サーチャージは、軽油価格の上昇分を運賃とは別に請求する仕組みです。ただし燃料費を補うものであり、修理費や人件費など他のコスト増まではカバーできません。

そのため、案件ごとに燃料費、修理費、高速料金、荷待ち時間、荷役作業などを含めた「適正原価」を把握し、利益が残るかを確認することが重要です。

改正トラック新法への対応も見据え、毎月の軽油代、修理費・タイヤ代、案件別収支を数字で管理し、適正な運賃設定につなげる必要があります。

元の記事を読む



株式会社タイガー
東京都千代田区神田猿楽町 2-1-14 A&Xビル 2F
<https://www.tiger-inc.co.jp/>
03-5283-7232

物流ソリューションエキスパート

